2024 年度入学試験問題 〔経済学部〕

一般選抜前期日程

小 論 文

「論述 (図表理解)|

注 意

- 1. 指示があるまで、手を触れないこと。
- 2. 指示に従って、解答用紙に受験番号(算用数字)および氏名をはっきりと記入すること。
- 3. 解答は、解答用紙の指定された箇所に、横書きで記入すること。
- 4. 問題冊子は10ページ、解答用紙は1枚である。もし、問題冊子の落丁、乱丁および解答用紙の汚れなどがあれば、ただちに申し出ること。
- 5. 問題冊子は持ち帰ること。

問題 (150点)

次ページ以降の資料をもとに、以下の設問に答えなさい。

設問1

図 1, 2, 3 をもとに, 2019 年 12 月以降のテレワークの状況をまとめ, 東京都 23 区でテレワークの実施頻度が高い理由を 300 字以内で推測しなさい。

設問2

図4~10をもとに、テレワークのメリットとデメリットを推測し、今後、テレワークが普及するか否かについて550字以内で述べなさい。

*図中の地域区分は次のとおりです。

三大都市圈:東京圈,名古屋圈,大阪圈

東京圏:東京都(東京都23区を含む), 埼玉県, 千葉県, 神奈川県

名古屋圈:愛知県,三重県,岐阜県

大 阪 圏:大阪府,京都府,兵庫県,奈良県

地 方 圏:三大都市圏以外の北海道と35県

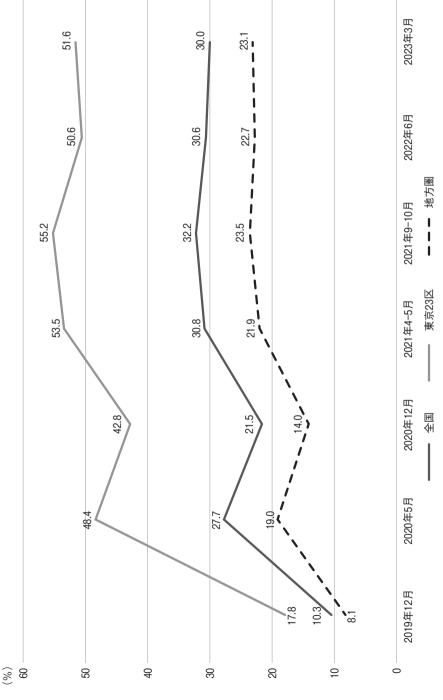
全 国:三大都市圈、地方圈

*図2~10は全国の結果です。

【出典】内閣府「第6回 新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査 | (2023 年)

*出題にあたり、元の図の一部を加工修正しています。

図1 地域別のテレワーク実施率%(就業者)



※働き方に関する問に対し、「テレワーク(ほぼ 100%)」、「テレワーク中心(50%以上)で定期的にテレワークを併用」,「出勤中心(50%以上)で定期的に テレワークを併用」,「基本的に出勤だが不定期にテレワークを利用」のいずれかに回答した人の割合

保育関係 7.1 2022年6月 農林漁業 医療、福祉 14.3 小売業 2021年9-10月 運輸業 21.1 その他のサービス業 (対人サービス) 27.1 2021年4-5月 公務員 29.5 教育、学習支援業 ◀ **∓**31.6 建設業 2020年12月 32.3 卸売業 40.7 業種別のテレワーク実施率(就業者) その他のサービス業 (対事業所サービス) 41.6 2020年5月 ※図中のパーセントは2023年3月の値 製油業 42.7 金融・保険・ ı 不動産業 44.3 2019年12月 電気・ガス・水道業 73.9 情報通信業 Z ⊠ % 8 8 2 9 20 9 8 8 10

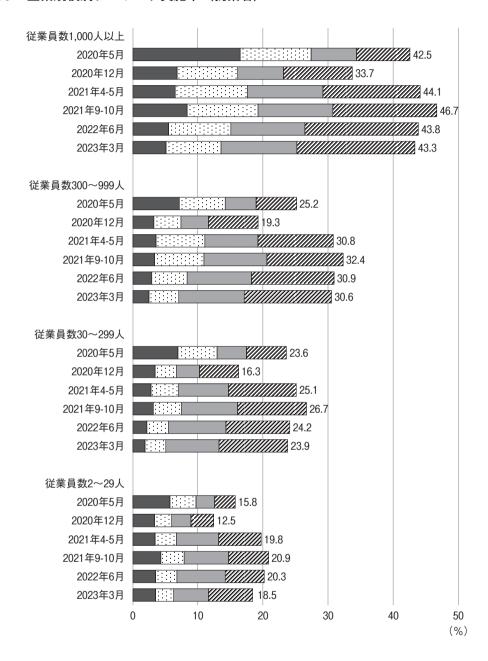
30:0

2023年3月

全体

- 3 -

図3 企業規模別テレワーク実施率(就業者)



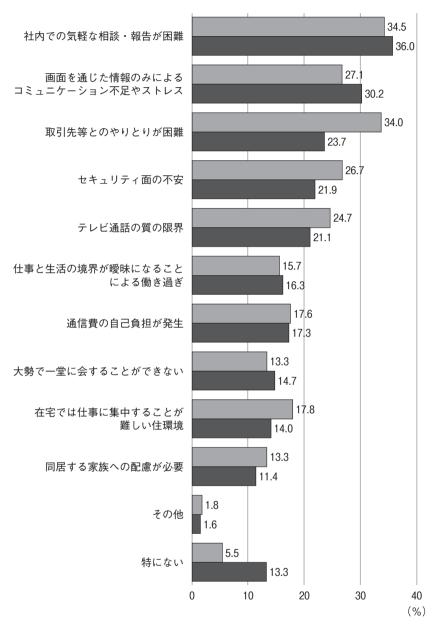
テレワーク(ほぼ100%)

- □ テレワーク中心(50%以上)
- 定期的にテレワーク(出勤中心:50%以上)
- 基本的に出勤(不定期にテレワーク)

※各横帯グラフの右側の数値について

例えば、一番上の 42.5 は、2020 年 5 月に行われた調査の時点で、従業員数 1,000 人以上の企業で就業していると回答した人のうち 42.5% がテレワークしていることを示している。

図4 テレワークで不便な点(就業者)



※「テレワークできない又は合わない職種である」と回答した人の割合は, 2020 年 5-6 月は 36.1%, 2023 年 3 月は 33.8%

2020年5-6月 2023年3月

図5 ワークライフバランスの変化(就業者)

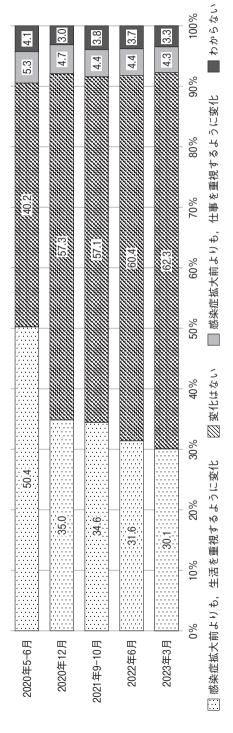


図6 労働時間の変化(就業者) ※2019年12月(感染症拡大前)からの変化を質問

		_	_	_			
2.1	 	6:	-2.0	- 2.0	-2.5	100%	
	6.5 3.8 3.8		က			10	$\overline{}$
6	8.8	6.7 4.2	6.3 3.3	6.8 3.8	4.6		増加
2.9		7.	6.3	ω		%	. 5%
	6.5	9			9.1	%06	九小
							5%源
						.0	5
						80%	概ね変化無い(5%減少~ 5%増加)
							な落
							藍
-10						%02	
						1-	
25							<u>~</u>
		3.9	53.	4.6		%09	6減分
	55.3	5		5)9	やや減少 (6%~20%減少)
					9.		~%€
					61.6	%	<u>\$</u>
						20%	や減
							\$
						.0	
						40%	
							\sim
13.3							。減少
		▤	2	\blacksquare		30%	. 20%
		4.5	14.5	13.7		(.)	減少(21%~50%減少)
	12.5						(2
10.9	昌					20%	減少
			9.7	က	7	8	
	6.0	6.8		6.3	112.7		
						%0	_
15.7	0		3.2	80	9	-	減少
	12.0	12	113	12	6.	<u></u>	J.Y.E
				12.8			(51%
2020年5-6月 /////15.7	2020年12月	2021年4-5月 [[12.1]	2021年9-10月 13.2	2022年6月	2023年3月 6.6	0%-3.1	🛛 大幅に減少(51%以上減少
<u></u> ‡5–€	年15	∓4–€	9–10	2年(3年(調に必
020	2020	0211	21年	202	202		ĸ
Ø		Ö	20				

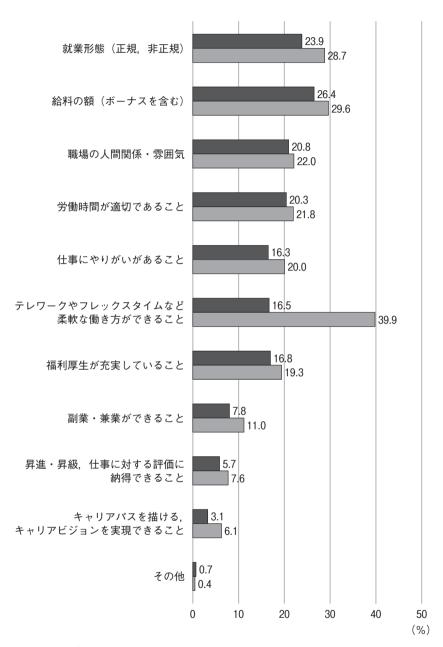
図7 生産性の変化(就業者)※2019年12月(感染症拡大前)からの変化を質問

■ 大幅に増加 (51%以上増加)

[三] やや増加 (6%∼20%増加)

<u></u>	2.8	-2.0	-2.0	-2.0	1.4	100%		
8-1	5.7	5.8 3.7	5.9 3.7	6.2 3.7	10.0	90% 1	>~5%増加)	
						80%	🔯 概ね変化無い(5%減少~5%増加)	
4						3 %02	◯ 概ね変(
55.	55.4	55.1	53.2	9.99		2 %09	《増加》	(上減少)
				9	9.65	20% 6	やや増加(6%~ 20%増加)	大幅に減少(51%以上減少)
						40%	\$ & ₩ 	
15.1						30% 4	50%增加)	50%減少)
	18.8	19.3	19.4	18.3		20% 3	增加(21%~50%増加)	減少(21%~50%減少)
14.5			10.5		13.8	10% 20		
10.6	5.6	5.2		4.5	3.7 8.0		(51%以上增加)	%~20%減少)
2020年5-6月 10.6	2020年12月 5.6	2021年4-5月 5.2	2021年9-10月 5.3	2022年6月	2023年3月 3.7	%0	🔯 大幅に増加 (51%以上#	[::] やや減少 (6%~20%減少)

図8 働く上で重視するもの(就業者)



※「重視するようになったものは特にない」と回答した人の割合は、 就業者全体で36.5%、テレワーク経験者で21.7%

■ 就業者全体 ■ テレワーク経験者

図9 家族と過ごす時間の変化 (18 歳未満の子を持つ親)※2019年12月(感染症拡大前)からの変化を質問

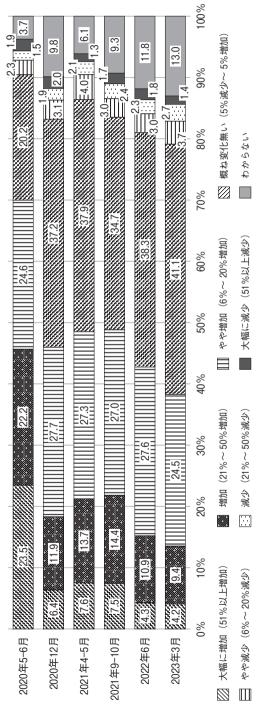


図10 家事・育児時間の変化 (18 歳未満の子を持つ親)

※ 2019 年 12 月(感染症拡大前)からの変化を質問

